



JOSHIBI no.183

小松美羽

作家になると、
信じていた。

わが子(作品)を1000年後に残したい。死後は自らの半生を映画にしてほしい。めざすは地球を代表する作家だ。ごく自然にそう語る現代アーティスト、小松美羽氏。日本の風土が生み出すものにこだわり世界に発信してきた氏の足跡に迫ります。

Photo: エーガン・アケセルバル | Text: 立古和智

小

学1年生のときには作家になると公言していました。あの頃から絶対になれる自信があったのです。女子美に進んだのは、高校の頃に通っていた美術予備校の先生が「君

は女の子ばかりの環境で、のびのびと創作するべきだ」と熱心に薦めてくれたからです。そのアドバイスは正解でした。本当にやりたい創作をのびのびと続けてこられましたから。女子美の短大には、入学後にいろんな表現分野に触れてから専攻を決める自由があります。それも女子美を選ぶ決め手になりました。そこで運命的に出会ったのが銅版画です。当時の私には描きたい線のイメージがあったのですが、銅版画を体験した際、目にした線を前に「これだ！私は版画をやる！」と即決したものです。銅版画の小川正明先生との出会いも運命的でした。小川先生がいたから版画に夢中になれたけれど、いらっしやらなかったらどうなっていたことか。先生は私のことを「よく叱っていたよ」と振り返りますが、私には褒めて伸ばしてもらった記憶しかありません(笑)。女子美生たちには私にとっての小川先生、人生の師を見つけてほしいですね。私にとって女子美とは「解放せし場所」でもありました。入学以前は、人から理解されにくい独特の絵で親を

心配させないように普通の絵を描いてきましたが、親元を離れた入学後は、以前から取り組みたかった「死生観を描く」に没頭します。子ども頃からたくさん動物と家族のように暮らしてきた私は、少なからず彼らの死にも立ち会ってきましたし、亡くなった祖父とお葬式で対面したこともあります。少なくないこの手の経験が私の興味を死生観へと向かわせたのです。私は、死とは美しいものだと思います。輪廻があるのなら死とは出発点。どんな生きものにも訪れる、まっさらに戻る儀式です。私はそんな前向きな生を描きたい。2004年度に女子美術大学優秀作品賞になった「ちよんこづいてた頃」や、2005年度に女子美術大学優秀作品賞になった「生死」、その後メディアでも注目された私の出世作「四十九日」は私の死生観を表現した作品で、今にも続く「目を大きく描く画風」を手にできたのは女子美にいたおかげです。しかし卒業後しばらくは「なぜ私は世の中から認められないのだ」と将来に不安を感じていました。作家と

して生きていける目処がたってきたのは現在のマネジメントオフィスに声をかけられた2009年以降です。2012年には、かつての「銅版画家」という肩書に自分を閉じ込めず、もっと自由に創作に取り組み、大きな世界へと飛び出すべく「四十九日」の原版を切断し棺桶に寝かせて成仏させました。これも「破壊から再生へ」という輪廻です。以後、有田焼や博多織、京都の老舗着物メーカーなど、いろいろな日本文化とのコラボレーションが続いています。2014年には出雲大社へ「新・風土記」を奉納し、2015年には大英博物館に「狛犬」が所蔵されることになり、世界最大の美術オークション、クリスティーズでの出品・落札も成し遂げましたが、これらはあくまで通過点。もっと華々しい世界へと進むつもりです。私は1000年後にも残る作品を生み出したい。私の死後は半生を映画化してほしい。めざすは地球を代表する作家です。そもそ

も、なぜこんなに好きで創り続けているのか。きっと「魂のカルマ(業)」なのでしょう。描くことが私の魂の生き甲斐で、描くほどに魂が磨かれる。自分の魂のためでもあります。輪廻をともなう日本の死生観には、日本の心につながるものがある、それを伝える私の作品には人々の魂を癒す力があります。それが私にとってアートです。それにこの子たち(自らの作品)って生きているのです。よく私にウインクしてくれますし、毛がプワッと動く子もいれば、いろんな人に観られるうちに顔つきが変わる子もいます。ますます素敵な仕事を引き寄せてくれるのも、この子たち。私、人としての自信はないのに、わが子に対する自信はあるのです。だから、この子たちが1000年生きるとか、大英博物館でキャラクター化されてお土産になる、といったことを本気で考えてしまうのでしょね。



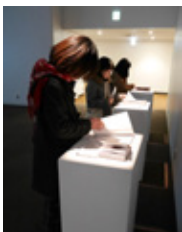
『四十九日』2005年
銅版画 Edition5 1050×690mm

小松美羽

1984年、長野県坂城町生まれ。2004年、女子美術大学短期大学部卒業。銅版画家として独自の死生観を描いた「四十九日」などで2006年頃から注目を浴びる。2014年、出雲大社に絵画「新・風土記」を奉納。2015年庭園デザイナー、石原和幸の作品「江戸の庭」と協働した有田焼「狛犬」が大英博物館に所蔵される。2015年11月29日クリスティーズに出品・落札された。
<http://miwa-komatsu.jp/>



タイトルもコンセプトも一新した学外選抜展を東京都美術館にて開催！



3月2日～6日までの5日間、上野の東京都美術館にて「JOSHIBISION 2015ーアタシの明日ー」が開催されました。昨年までは「女子美スタイル展」として開催してきた学外選抜展ですが今年からタイトルもコンセプトも一新。JOSHIBISION×EXHIBITION×VISIONをうたいだ言葉から名づけられたタイトルには「今を生きる、等身大の学生たちのさまざまな視点が集まり、ともに未来を見つめていこう」というメッセージが込められています。一人ひとりの「明日」を豊かな創造力で切り開く女子美生たちの姿を見てほしい、これまで励んできた成果と自分の可能性を信じ、これからの「明日」を軽やかに力強く生きていこうというコンセプトのもと企画・運営されました。展示作品は大学院、芸

術学部、短期大学部それぞれの研究室から推薦されたもので、卒業制作に限らず全学年から選抜されたもの。「女子美スタイル」に引き続き本学付属高等学校の卒業制作展も併せて開催され、オール女子美のイベントとして東京都美術館のフロアを彩りました。3月4日にはキュレーターの難波祐子氏と中野仁詞氏をゲストに迎え、今回展示された選抜作品をスライドに投影しながら、制作した学生と質疑応答をする形式で講演会を実施。おふたりは作品そのものについてだけでなく展示方法や見せ方にも着目され、キュレーターとしての目線から講評をいただきました。難波氏は「リズムや流れ、ストーリーをもたせながら展示を構成してほしい。アートは人に見せてこそ。与えられ

た空間と場所を使ってどのように見せていくかを考えてほしい」とアドバイスし、「せっかくなか美大という環境に在るのだから、学生の間は好きなことをどんどん突き詰めて、挑戦して、思いきり表現してください」とコメント。中野氏は「皆さんは何かを作りたいという欲求や衝動、パワーを表現できる絶好の場所にあります。自分のなかに取り込んだものをどう噛み砕いて作品に入れていくか、変換したり置換したり方向を変えたりアプローチの方法はたくさんあります。自分しか作れない作品を「展示」という目線からも考えてみてください」と

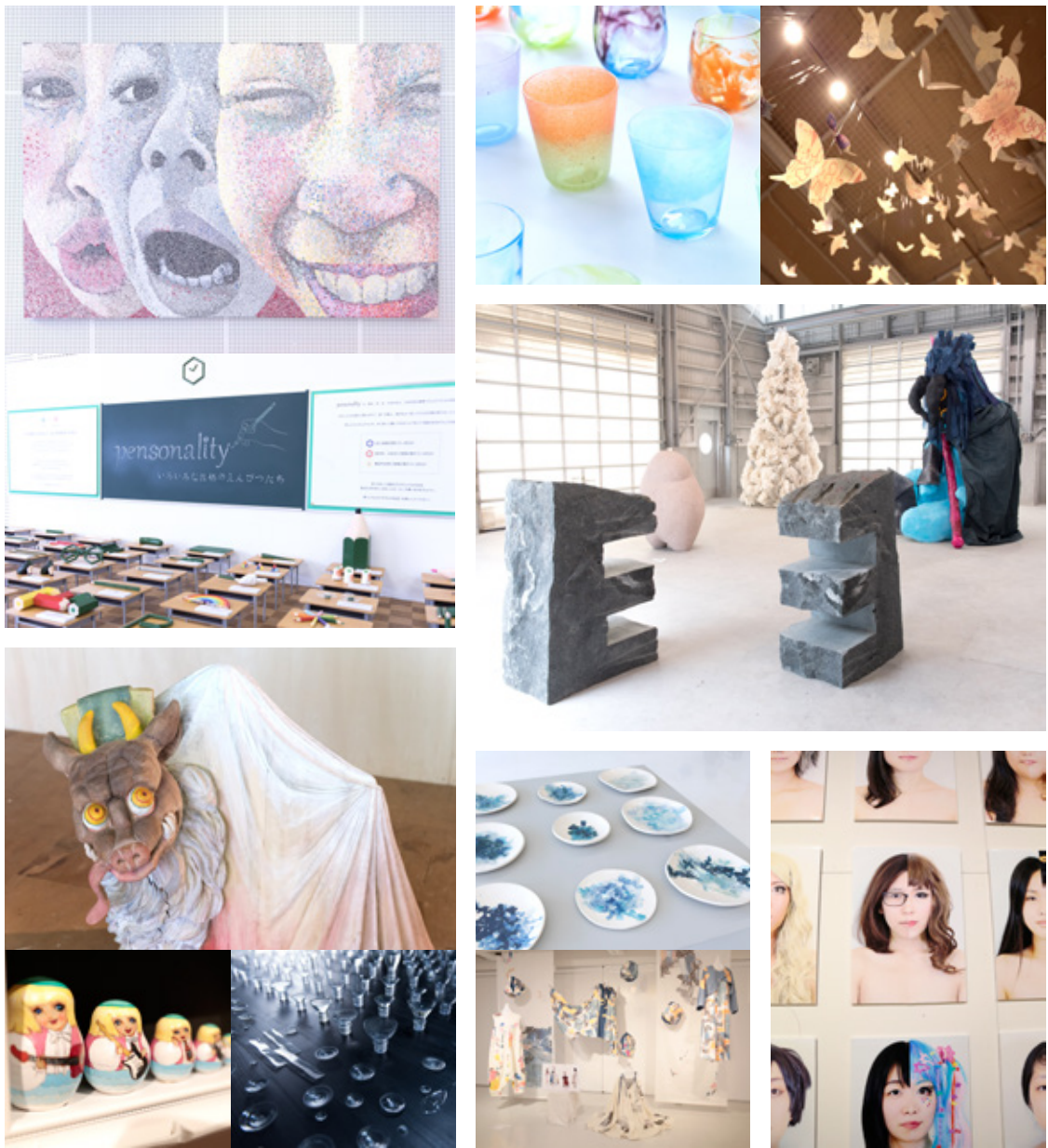
エールを送りました。学外選抜展のディレクターを務めた本学アート・デザイン表現学科アートプロデューサー表現領域の日沼禎子准教授は「『JOSHIBISION』のように学年、専攻、領域をミックスした展覧会を開催する機会は多くありません。異分野のものが集まるからこそ新たな発見があり、批評も生まれます。これから長い表現者としての活動が続く限り、自分が取り組んでいることをさまざまな角度から眺め、自分自身でも批評し、問いかけ続けることが大切です」と総評の言葉を述べられました。



10月23日～25日の三日間、杉並と相模原の両キャンパスで女子美祭が開催されました。今年も天気恵まれ、学生による作品展示をはじめワークショップや模擬店、自作グッズの展示販売は大盛況。連日たくさんの方にお越しいただきました。杉並キャンパスでは声優の増田俊樹さんのトークショーと、俳優の塚本高史さんの講演会を開催。一方相模原キャンパスでは本学卒業生でシナモロールの作者でもある奥村心雪さんの講演会と、リバスプロジェクト藤元明さん、今村圭佑さんの講演会が開催されました。開催前から話題となっていたイベントだけでなく、当日も整理券を求める方が多く見られました。また体育館では今までにないライブイベント「バンドフェスティバル」を開催。会場となった体育館はライブハウスとなり、熱気に包まれていました。

2015年度卒業制作展／
修了制作展、開催

3月11日～13日、杉並と相模原の両キャンパスで芸術学部・短期大学の2015年度卒業制作展／修了制作展が開催されました。開催期間最終日には、芸術表象専攻優秀卒業研究および大学院修士論文発表会が相模原キャンパスで開催。学生生活の集大成である卒業制作や、同期間に開催している大学院の修了制作を鑑賞するため、多くの来場者がキャンパスを訪れました。





女子美術大学付属高等学校・中学校 創立100周年記念式典

女子美術大学付属高等学校・中学校の「創立100周年記念式典」が、10月30日に中野サンプラザ大ホールにて執り行われました。佐藤志津先生により1915年(大正4年)に菊坂校舎に開校した私立女子美術学校附属高等学校は、美術大学の付属校として日本でもっとも長い歴史と伝統を重ね、100年の歳月のなかで「女子の美術教育」を培ってきました。2015年は創立100周年を迎える年として、5月に上野の森美術館にて「女子美術大学付属高等学校・中学校 創立100周年記念 描く100年 創る100年『未来へつなぐ展』」を開催。その他にも創立

100周年ロゴマークや、体育館の壁面を彩るモザイク壁画の制作・設置など、付属生徒たちの手によるさまざまな取り組みが行われてきました。式典は本校に関係する方々のご出席のもと、福下理事長、小川校長の式辞に始まり、文部科学省初等中等教育局、東京都私学部、東京私立中高協会、杉並区、その他関係者からのご祝辞を賜りました。管弦楽部の演奏や生徒による校歌斉唱、祝典歌「COSMOS」合唱、鏡友会による在校生代表挨拶や、付属卒業生で女優の桃井かおりさんによる特別講演もあり、厳かななかにも温かみに溢れた心に残る式典となりました。

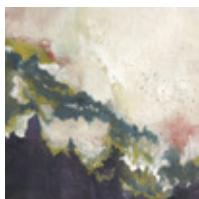
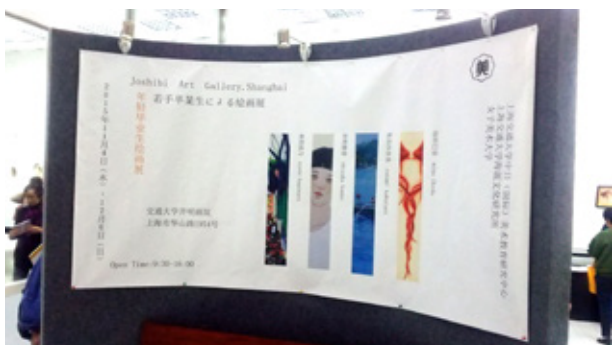


大村智名誉理事長 ノーベル賞授賞式に出席

12月10日、スウェーデンの首都ストックホルムで開催された2015年ノーベル賞授賞式に、ノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智名誉理事長が出席されました。授賞式はストックホルムの中心部に位置する歴史あるコンサートホールで開催。1500人以上の参列者が見つめるなか大村先生は笑顔で壇上に登

場し、メダルと賞状を受け取っていただきました。ノーベル賞授賞式を含む約1週間は「ノーベルウィーク」と呼ばれ、ストックホルム市内では祝賀行事や受賞記念に関するイベントが行われます。数多くのイベントに参加された大村先生は、帰国後本学にも来校され、キャンパス内は祝賀ムード一色となりました。





Joshibi Art Gallery.Shanghai 若手作家による2つの作品展を開催

2012年から中国・上海のM50エリアで展開してきた本学の「Joshibi Art Gallery.Shanghai」は、2015年度より上海交通大学内のギャラリースペース「開明画院」に活動拠点を移し、「Joshibi Art Gallery.Shanghai」としてのギャラリー展開を引き続き行うことになりました。昨年11月、この新たな拠点における企画展第一弾として、本学卒業生4名(池田巴奈、角谷沙奈美、菅野静香、萩原綾乃)による洋画作品展「若手卒業生による絵画展」(2015年11月4日～12月6日)を開催。また第2弾として、

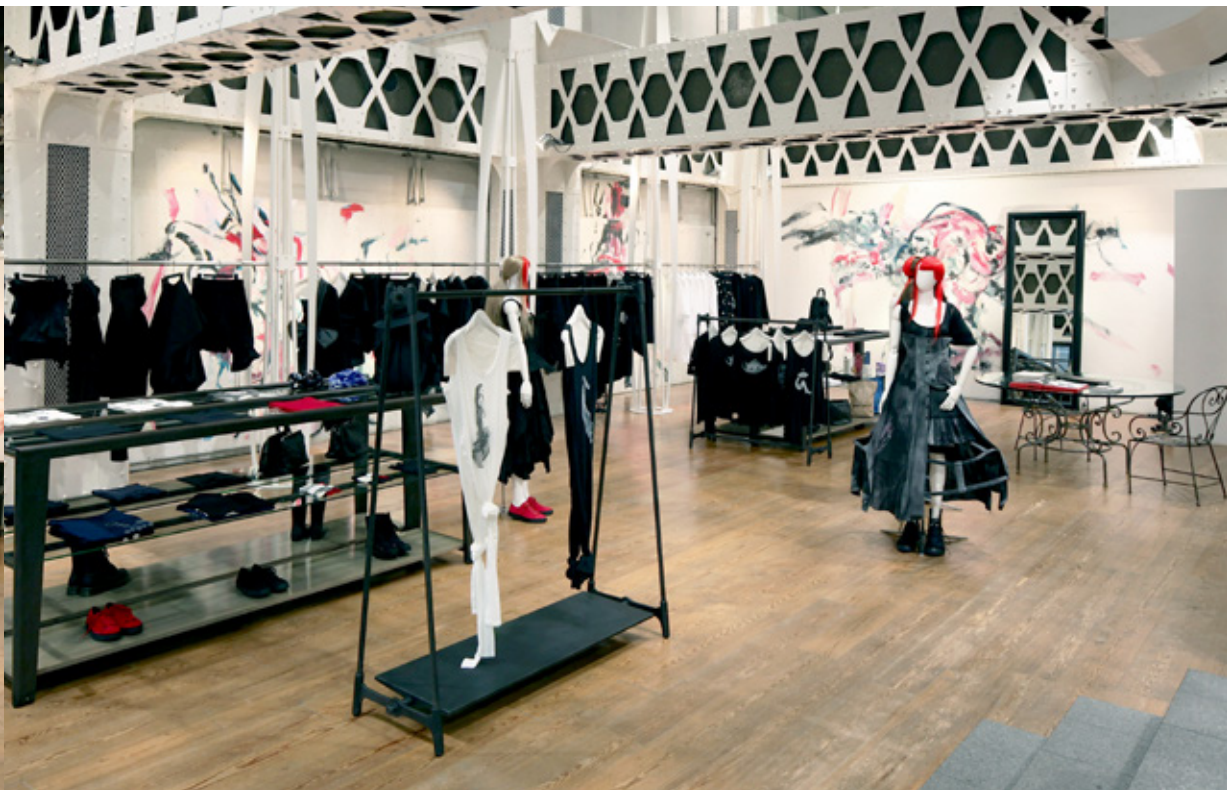
今年2月には本学卒業生による日本画作品展「青年画家日本画作品展」(2016年2月24日～3月13日)が開催されました。本学大学院生10名を含む総勢17名が出品し、伝統的な日本画の技術を受け継ぎつつも、それぞれの表現が光る賑やかな作品展となりました。大学院生たちにとっては貴重な海外での展示、今後の制作活動への活力となりました。どちらの作品展においても、普段あまり目にするのできない日本の若手作家による作品の数々に、来場者は興味深く鑑賞していました。

「中国古書画修復表装レクチャー」にて 修復を学ぶ

「中国古書画修復表装レクチャー！実演」が1月22日、杉並キャンパス110周年記念ホールで開催されました。中国を代表する装潢師の先生方をお招きし、高度な技術を目の前で披露していただける機会に多くの方が集まりました。装潢師の先生方をご紹介し、上海での修復活動を映像で鑑賞した後、今回のメインイベントである実演がスタート。劣化によって空いた穴を慎重に修復していく作業や、竹の繊維で作られた中国の紙と実際に修復に使用されている道具を用いた、大胆でありながら繊細さが求められる作業の一つひとつに参加者は興味津々、熱

心にメモをとる姿がとても印象的でした。続いて、作品を補強するため裏面に紙を貼る裏打ちの実演では本学の学生や留学生も実際に体験。専用の刷毛で糊をうすく紙に塗り、力加減に注意しながら紙を撫でて貼りつける作業では、装潢師の先生方が日頃から使用している道具や材料に触れ、真剣な表情で取り組んでいました。先生方による丁寧な指導の下、実演を終えた学生からは笑顔がこぼれました。質疑応答の時間では、さまざまな質問に対し先生方が回答してくださり、和やかな雰囲気な学びの場となりました。





2016 SPRING SUMMER INSTALLATION WALL PAINTING by Yuuka Asakura, YOHJI YAMAMOTO AOYAMA (写真: 田村友一郎)



本学大学院博士後期課程美術専攻（洋画）に在籍し、ヨウジヤマモト2016年春夏コレクションにご自身のペインティングワークが用いられ本学各員教授の山本耀司先生と作品を発表された朝倉優佳さんが、1月にヨウジヤマモト青山本店にて壁画を公開しました。自らが携わった春夏コレクションのコンセプトから着想した壁画は人体がモチーフとなっており、メンズフロアは赤やピンクなどの暖色で力強く着色され、スーツやウエアを引き立てる華やかな空間となりました。一方、寒色をベースに彩られたレディースフロアは女性ならではの怖さやダークな感情が表現され、ドレスやインナーウエアが映える洗練された空間となりました。「ザラっとした壁の質感、絵の具の吸い込み方、垂れ具合などはキャンバスと条件が違うのでいつもより絵の具を崩したり遊ばせたりしました。

作品が完成して商品やディスプレイが並べられ、照明がつけられて店舗としての空間ができあがったときはほっとしましたね」。朝倉さんは壁画制作の経験はありましたが、店舗の壁面に作品を手がけるのは初めてだったそうです。「作家として作品を表現する場所として、でもそこは商品を求めてお客様が訪れる場所。そういう面では自分の表現に悩むこともありました。制作期間中は山本先生が何度も足を運んでくださりモチベーションやメンタル面でサポートしてくださいました。先生とは指導者と学生という立場ではなく、あくまでデザイナーと作家として意見が交換できた気がします。一緒に空間を構築していく素晴らしい環境を作っていただきました」。3月にはパリにあるヨウジヤマモトカンボン店で壁画の公開制作を行った朝倉さん。同月4日にパリで発表されたヨウ

ジヤマモト2016年秋冬コレクションンでも朝倉さんのペイントが用いられ、白のシューズに黒いペイント、黒ジャケットに汚れのようにな点状するグロッシーな黒、あるいは白シャツに黒いペイントなど、服やシューズの上に数種の黒の表現が行われました。朝倉さん

は「平面、立体、空間、さまざまな制作を経験させていただきましたが、あくまで私は作家としてペインティングにこだわりたいと思っています。私の作品を見て『ああ、これは朝倉だね』とわかってもらえるような作品を作りたいと思っています」と話してくれました。



壁画制作中の様子, YOHJI YAMAMOTO PARIS CAMBON



朝倉優佳

1988年東京生まれ。2011年女子美術大学洋画専攻卒業。2012-13年野村財団芸術文化助成を得てドイツ・ニュルンベルクにて活動。帰国後同大学大学院修士課程を修了し現在同大学博士後期課程在籍。個展・グループ展など受賞多数。ファッションブランド「ヨウジヤマモト」の2016年春夏と2016-17年秋冬コレクションに作品が用いられた。本年12月に東京オペラシティアートギャラリーにて山本先生との展覧会「画と機」を開催予定。



向井 三郎

芸術学部 美術学科
洋画専攻 特任教授

目には見えないけれど、その存在が確かであると信じられること。それはアートの醍醐味です。アートのない世の中なんてつまらないです。今、世の中は大きな曲がり角にあるように思えます。私たち一人ひとりがそれぞれの現場で歴史を学び、制作を通してそれぞれの感性を磨いていくことが大切です。自由に、辛抱強く、そして互いに共感をもって。それはいつか世の中に向かって投げられる色鮮やかな毬となるでしょう。まずは女子美が現場です。

1964年福岡県生まれ。東京藝術大学大学院修士課程修了。ハーグ王立造形芸術アカデミー(オランダ政府給費留学)卒業。1980年代末より個展等を中心に画家として活動。



松山 智一

芸術学部 デザイン・工芸学科
ヴィジュアルデザイン専攻
特任准教授

花が咲く季節はそれぞれ違います。もしも今、誰かより自分が遅れていても焦る必要はありません。自分の季節が来れば、誰かに負けない花が必ず咲くからです。その季節を迎えるためには今、たくさんのモノを見て、心を動かし、手を動かし、考えながら、自分と向き合う時間がとても大切です。そしてその花が咲く季節、目の前には、今よりもっと大きな世界が広がっていることでしょう。そんな季節を皆さんと一緒に迎えられることを嬉しく思います。

1966年三重県生まれ。多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業。広告代理店を経て(株)ビーンズ入社。同社退社後、自社を設立。主に広告、出版、音楽、ファッションの分野にてアートディレクションとデザインに携わる。



葛西 絵里香

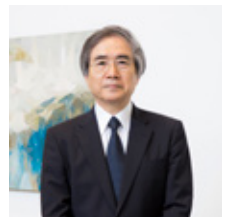
芸術学部 デザイン・工芸学科
ヴィジュアルデザイン専攻
特任助教

大学で過ごす時間は、一生の中で貴重なひとときだと思います。学生生活は、得るものが多く、なんでも吸収できる時期です。長いような短いような数年間、学内に限らずたくさん学んで、遊んで、見て、作って、楽しんで動いてみてください。その為の一助となれば幸いです。

1982年横浜生まれ。女子美術大学短期大学部造形学科専攻科情報メディアコース卒業。在学中より雑誌や書籍などのハンコを使った挿絵を中心に活動、卒業後フリーランスに。

退職された先生方

芸術学部		教授	林 正寛
芸術学部	デザイン・工芸学科	プロダクトデザイン専攻	教授 山本吉男
芸術学部	デザイン・工芸学科	ヴィジュアルデザイン専攻	講師 矢辺 博子
大学院		特任教授	淵田隆義



学校法人女子美術大学
理事長 福下 雄二

本学は、芸術による自立した女性の育成を建学の精神として、116年前、横井玉子、佐藤志津という2人の女性により創立されました。卒業した多くの先輩方は芸術の世界だけでなく、あらゆる分野で活躍しております。皆様には、本学の歴史や創立者をはじめとする先輩方の生き方を学んでいただきたいと思っています。

また、皆様には、本学において美術・芸術に係る知識と技術を学ばれ、感性を磨かれ、芸術を創造していく力を身に付けていただけるよう研鑽を積んでいただきたいと思っています。そして、良き友人に恵まれ、良き先生に巡り会い、良き書物に出会えるよう努力していただき、豊かで充実した学生生活を送っていただけるよう期待しております。



学長 横山 勝樹

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。私たち「女子美」は、新しい仲間となったみなさんを心から歓迎しています。女子美術大学・女子美術大学短期大学部の建学の精神は、「芸術による女性の自立」、「女性の社会的地位の向上」、「専門の技術家・美術教師の養成」です。女子美の先生たちは、この言葉の意味を考えながら、美術とデザイン、そして関連する学問の世界で日々制作と研究を実践している人々です。みなさんの先輩たちも、先生たちとともに116年間

の精神を受け継いできました。みなさんもこの言葉の意味をぜひ心に留めて、これからの大学生活を送ってください。21世紀は、地球環境・世界平和の問題など、難しい問題が山積している時代です。それゆえに日々の制作と研究を通して、女子美の建学の精神を世界に発信していくことが、私たち、つまりみなさんの使命です。女子美でたくさんの仲間を見つけてください。そしてみなさんの活躍に期待をしています。



短期大学部部長
小林 信恵



芸術学部部長
橋本 弘安



大学院美術研究科長
稲木 吉一

特別対談 萩尾望都先生×中野京子先生

アート・デザイン表現学科主催特別公開講座「宇宙・人間・アート」で客員教授・漫画家の萩尾望都先生と、作家・独文学者の中野京子先生による特別対談が開催されました。今回初対談となるおふたりを司会の同学科メディア表現領域内山博子教授が著作と共に紹介。SF好きの中野先生が、萩尾先生のSF作品『百億の星と千億の夜』の阿修羅の眉の表現と、中野先生の著書『はじめてのルール』に収録されているヴァン・ダイクの『自画像』の眉の表現の関連についてのお話からスタート。その後、萩尾先生が連載中の16世紀フランスを舞台にした『王妃マルゴ』と、中野先生の著書『残酷な王と悲しみの王妃』についてクロストーク。当時の登場人物の人間性や服装、王族の関係性などについて深く、熱いトークが交わされ、90分の特別対談は終了となりました。



萩尾望都 先生

女子美術大学客員教授・漫画家

1969年にデビュー以来、SFからサスペンス、ファンタジーなど幅広いテーマの名作を数多く生み出し、その作品群は漫画文学の最高峰といわれ、多くの文化人から高い評価を受けています。代表作に『ホーの一族』『トーマの心臓』『11人いる!』『残酷な神が支配する』『バルバラ異界』など。2012年紫綬褒章受章。

中野京子 先生

作家・独文学者

西洋美術と西洋史に関する無尽蔵な知識を駆使し、執筆活動を続ける。「怖い絵」シリーズ(角川文庫)、「名画で読み解くハプスブルク家12の物語」(光文社新書)など著書多数。ブログは「花つむひとの部屋」
<http://blog.goo.ne.jp/hanatumi2006>



このプロジェクトは授業の一環で長野県高山村を訪問し、村内の自然や環境、農業、観光をテーマに制作活動を行っています。2015年は芸術学部アート・デザイン表現学科メディア表現領域と同学科ヒーリング表現領域3年生が参加しました。9月20日、銀座NAGANOにて高山村の特産物を使用した商品企画などのプレゼンテーションが行われました。会場には久保田勝士高山村村長、須高ケーブルテレビ株式会社丸山康照社長も出席され、学生の提案への意見や問題点などコメントいただきました。続いて、これまでのプロジェ

クトに参加した卒業生23名が出席した女子美OG会では、会場のスクリーンに過去の映像や作品が映し出され、10年の成果を振り返りました。10月10日には、高山村で10周年記念式典が執り行われ、久保田村村長、丸山社長、本学より横山勝樹学長、メディア表現領域3年生、関係者の約70名が出席。「産学官連携事業と地域創生」をテーマに行われたパネルディスカッションでは、高山村ならではの強みである特産物や景観などを、本学のデザイン力と須高ケーブルテレビの情報発信力で「高山村を世界に発信していく」と意志を固めました。

10周年を迎えた高山村プロジェクト 記念事業を東京と高山村で開催

平成18年よりスタートした長野県高山村、須高ケーブルテレビ株式会社、本学の産学官連携地域文化創生事業である「高山村プロジェクト」の10周年記念事業が、東京都と長野県高山村で開催



10月11・12日、学生たちは、高山村にある一茶館近くのバス停をペインティング。これは、高山村のバス停をキャンパスに見立て、デザインとペイントを行う取り組みで、デザインは9月の銀座NAGANOで決定した。仕上げは高山村の子どもたちも協力して完成しました。内側は桜、外側は「一茶館」をイメージしたという色彩豊かなバス停は、普段バス停を利用する村の方や制作した学生にとって愛着の持てる、10年の節目にふさわしいものとなりました。



02 | 女子美の“色彩” 研究でW受賞

2014年度、本学大学院色彩学研究分野の博士後期課程を修了し、2015年度より研究員として本学に在籍中の中島由貴さんが、一般社団法人照明学会より「研究奨励賞」、一般社団法人日本色彩学会より「大会発表優秀賞」をそれぞれ受賞しました。工学系大学のみならず、機械メーカーの研究者らと並んで研究分野をプレゼンする、という美大には特異な環境下で見事に受賞。中でも照明学会の研究奨励賞は、同業界での大変名誉ある賞とのことで、中島さんの今後の研究により一層の注目が期待されます。

NEWS & TOPICS

05 |



最先端 クリエイティブの祭典 「TOKYO DESIGN WEEK 2015」 プロダクトデザイン専攻がトリプル受賞の快挙達成！

デザイン・アート・ミュージック・ファッション、4つのジャンルから、企業、ブランド、デザイナー、学校が発表する最先端のクリエイティブを体感できるイベント「TOKYO DESIGN WEEK 2015」が昨年10月下旬から11月上旬にかけて明治神宮外苑絵画館前で開催されました。各学校が作品を展示し、デザイン・クリエイティブ力を競い合う「ASIA AWARDS学校作品展」では「遊波動」のブースタイトルで出展した芸術学部デザイン・

工芸学科プロダクトデザイン専攻チームが、学校賞部門で「準グランプリ」、企業賞「西武そごう賞」、作品プレゼンテーション「1位」と、トリプル受賞の快挙を達成しました。美術系大学のみならず、さまざまな大学が出展する中での見事な受賞。夏休みを返上して制作に励んだ女子美生たちに拍手を送りたいと思います。

03 |



桑島流の“地獄”を表現

本学卒業生で客員教授でもある桑島十和子先生が、監督・脚本宮藤官九郎×長瀬智也×神木隆之介ら豪華キャストが織り成す超絶地獄めぐりストーリー「TOO YOUNG TO DIE! 若くして死ぬ」の美術監督を担当されました。恐怖の象徴でしかない地獄も、桑島先生の手にかかればロックと高校をクロスオーバーさせたユーモアたっぷりの美術セットに。本学学生も美術作業に参加して、映画制作の一端を担いました。

「TOO YOUNG TO DIE! 若くして死ぬ」
©2016 Asmik Ace, Inc. / TOHO CO., LTD. / J Storm Inc. / PARCO CO., LTD. / AMUSE INC. / Otonakeikaku Inc. / KDDI CORPORATION / GYAO Corporation



06 |



洋画専攻4年生卒業制作内覧会 「Pre-exhibition-私たちに出来ること-」

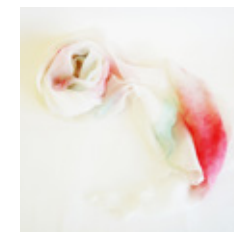
12月16日から18日までの3日間、芸術学部美術学科洋画専攻の4年生による卒業制作内覧会「Pre-exhibition-私たちに出来ること-」が相模原キャンパスで開催されました。今回で4回目となるこの内覧会は、企画から展示、イベントまでを4年生が主体的に考え、学内外に作品を公開し、広く社会に対して関わりを持つことも授業課題のひとつとなっています。相模原キャンパス内の洋画専攻のアトリエに展示された数多くの卒業制作作品はまさに大学生活4年間の集大成であるため、在生学生はもちろん、来場した美術関係者からも注目を集めていました。展覧会初日には大庭大介氏、本江邦夫氏をゲストに迎えた講評会も開催。講評会後のオープニングレセプションでは、ゲストのおふたりと積極的に意見交換をする学生たちの姿がとても印象的でした。



04 |

三越伊勢丹×女子美 次は誕生花と星座のギフトアイテム

『娘が大切なお母さんに“三越伊勢丹”で買いたい&贈りたい、ストール』というテーマで、昨年大好評をいただいた三越伊勢丹と本学のコラボ企画。今年は誕生花と星座、さらにアイテムをストールと日傘に広げて、杉並キャンパスの在学生からデザイン募集・作品コンペを実施しました。本企画には110点もの作品案が寄せられ、三越伊勢丹バイヤーと各研究室の教員らによる厳選なる審査のもと、誕生花12点、星座12点をそれぞれ選出。2016年4月20日(水)よりストール・日傘の両アイテムが三越伊勢丹の基幹3店舗(伊勢丹新宿店・日本橋三越本店・銀座三越)で、ストールのみ地方15店舗にて販売されます。あなたも大切な人へ贈り物としていかがでしょうか？



女性視点の華やかなブースを出展！ エコプロダクツ2015

12月に東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2015」。環境問題の解決に貢献することを目的として産官学民の知恵が集結する日本最大級のエコイベントに、芸術学部デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻の学生が華やかなプレゼンテーションブースを出展しました。ブースでは「楽しみながらエコができる、女性視点のデザインの提案」という主旨のもと、3、4年生が女性視点のエコデザインの仕組みやプロダクトを提案。エコプロジェクトメンバーや本学付属高校生が大学の体験授業で取り組んだ、廃棄物を利用したインテリアグッズやファッショングッズの提案も行われました。可愛らしいカラフルなデザイングッズが並ぶ女子美ブースに足をとめた来場者は、制作した学生の説明に興味深く耳を傾けていました。



宝絹展 展示作品コンテスト グランプリ発表

国産の繭から作った絹をアピールするために開催された「純国産宝絹展」(11月20日、21日:ニ子玉川ライズ(世田谷区玉川))において、「次世代への純国産宝絹の継承」をテーマに、芸術学部デザイン・工芸学科工芸専攻の学部生及び工芸研究領域の大学院生ら11グループが純国産宝絹を使用し制作した作品が展示されました。来場者が最も印象に残った作品を投票によって選ぶコンテストも行われ、石瀬華子さん(大学院美術研究科美術専攻修士課程工芸研究領域(刺繍)1年)の作品「ひろがり」がグランプリに選出。また、次点となる宝絹賞には、藤田千鶴さん(大学院美術研究科美術専攻修士課程工芸研究領域(刺繍)1年)の作品「大正ロマン昭和レトロモダン」が選ばれました。工芸専攻の学生による作品展示、織・刺繍の実演展示も行われ、大盛況の2日間となりました。



JOSHIBI × INDEN-YA

株式会社印傳屋と女子美の産学連携プロジェクトとして行われた学内デザインコンペティションの表彰式が、杉並キャンパスで開催されました。アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域2年の高木智佳子さんが最優秀賞を受賞。株式会社印傳屋上原勇七 上原重樹代表取締役社長より表彰状および副賞が授与され、客員教授の佐藤和子先生より「どれも甲乙付け難く、若いファンタジーなデザインが多く、のびのびとした女子美生の雰囲気を感じられました」と審査総評がありました。式後に開催されたティーパーティーでは、印傳屋会長夫人で女子美卒業生でもある上原桂子さんより「若い方々に印伝を知っていただけて、とても嬉しい」と挨拶がありました。後日、女子美オリジナルとして八咫鏡柄の名刺入と小銭入が制作され、数量限定で特別販売されています。※印伝とは鹿革に漆で模様をつけた革の伝統工芸です。



10 | 映画「ラスト・ナイツ」試写会を学内で開催

10月、映画「ラスト・ナイツ(11月14日全国公開)」の試写会と、紀里谷和明監督によるトークショーが相模原キャンパスで開催。紀里谷監督は映画『CASSHERN(2004)』、『GOEMON(2009)』のほか、映像・写真の作品を数多く発表されています。トークショーでは映画製作における信念や心掛けていることが話題の中心に。「自分が『自由』であることを大切に仕

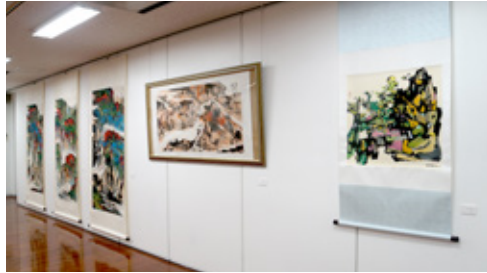
事に取り組んでいる。『自由』ということは、失敗を恐れずに『衝動』や『直感』を信じるということ。だから、美大で学んで何かをつくりたいと感じている学生の皆さんには、自分が『自由』であることを意識して自分の作品と向き合ってもらいたい。」と聴講者にメッセージを贈りました。トークショー後には写真撮影会が行われ、紀里谷監督は気さくに対応されました。



13 |

女子美術大学・上海交通大学交流展 「百年丹青緑展」

本学と上海交通大学海派文化研究所は2012年に協定を結んでから、芸術交流や学術研究交流を行ってきました。2013年には、両学の中日芸術文化交流のプラットフォームとして「中日(国際)美術教育研究センター」を開設し、さまざまな交流を通し友好関係を続けています。今回で5回目となる交流展「第5回 百年丹青緑展 中国国際交流書画展 上海交通大学・女子美術大学」が、1月22日～2月3日まで杉並キャンパス110周年記念ホールにて開催。上葛明広名誉教授、日本画専攻宮島弘道教授は、昨年、中国の景徳鎮へ赴き、絵付けを行った皿や壺などの陶磁器を出品。また上海交通大学からは詹仁左先生、吳一平先生、王琦先生らの書画が出品されました。力強い筆の運びを感じさせる陶磁器と書画の数々に会場に訪れた人々も見入っていました。



11 |

日本文化を身近に 「ちぎり絵ワークショップ」開催

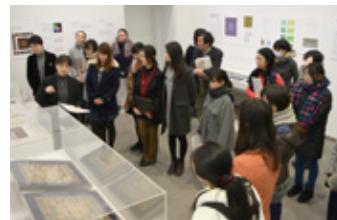
日本の手漉き和紙技術が2014年11月にユネスコ無形文化財に登録されました。日本文化のひとつである和紙をたくさんの方に触れてほしいという想いから、公益財団法人日本和紙ちぎり絵協会より講師を派遣していただき、12月9日、相模原キャンパス国際交流ラウンジにて、留学生と日本人学生との交流会として、ちぎり絵ワークショップが開催されました。一枚一枚職人が漉き、折り染めが施された色鮮やかな手漉き和紙を目の前に学生たちは興味津々。和紙を夢中になって手に取り、ちぎってでき

る毛羽(けば)や、繊細なグラデーションを組み合わせながら「ちぎる・剥ぐ・貼る」を繰り返して、「生き物」をテーマに作品を完成させました。「和紙は創作のひとつ。新たな素材としてどんどん制作に取り入れてほしい」と先生もコメント。ワークショップを終えた学生たちからは「作品だけでなく、生活の一部にも取り入れていきたい」との声もあり、和紙を身近に感じられる貴重な機会となりました。

14 |

「科研研究成果発表展」、開催

世界レベルの多様な知の創造、次世代の人材育成と大学の教育研究機能の向上等を目的として、学術研究の振興と人材育成のための活動を幅広く行う機関である日本学術振興会。その事業の柱である科学研究費助成事業に、本学は2013年採択され、本年度まで研究を続けてきました。その成果を示す機会として、11月25日～12月11日、Joshiibi SPACE 1900にて「科研研究成果発表展」として展示・発表会が行われました。テーマ「古典絵画における岩絵具粒子分布の検討とその芸術表現への応用」について、美術史、色彩学、日本画を専門とする6名の研究者が分担し課題を進めてきました。曼荼羅の調査を糸口に、学術的視点からの研究発表と、それを基とした再現模写、日本画研究領域の大学院生が制作した実験作品の展示及び考察によって構成された発表会となりました。



12 |

特別公開講座に 卒業生の宇津木えりさんが登壇

12月、アート・デザイン表現学科が主催する特別公開講座「宇宙・人間・アート」に、本学卒業生でファッションデザイナーの宇津木えりさんをお招きしました。2016年は宇津木さんがデザイナーを務めるブランド「mercibeaucoup.」がスタートして10周年。講座では「ここにくるまで。そしてこれから。」というテーマで「mercibeaucoup.」のコレクション動画の上映後、オシャレが大好きだった子ども時代、女子美短大やバリ留学での学生時代、就職、現在の仕事内容や、仕事で大事にしていることについて具体的にお話いただきました。講座の最後には「夢は叶う。だって私が叶えたから。大変なことは大変じゃない。楽しいから。失敗を恐れずに楽しんでください。頑張っね!」と学生に向けての応援メッセージをいただきました。



17 |

文化庁委託事業 平成27年度 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業

新進舞踊家と新進ファッションテキスタイルのデザイナーを対象に、舞台空間のさらなる可能性を拓くための公演とそれに関する研修の場を設け、今後の自らの創作活動に活かすことができる広い知識と視野を得る機会を提供することを目的としたプロジェクト。この事業に本学卒業生である木田景子さん、平沢みゆきさん、辻沙織さん、そして本学ヒーリング表現領域助手の西田秀己さんが選出されました。舞踊部門



(左) 小栗百子 + 辻沙織 作「ハテナマイマイ」
(右) 二瓶野枝 + 西田秀己 作「室温」

とファッションテキスタイル部門より新進振付家、新進デザイナーが公募によって4名ずつ選出され、振付家やダンサーの人数制限などさまざまな制約のある中、チームを結成して約7ヶ月の創作期間の間に研修やリハーサルを実施。その集大成としての公演「踊る身体とファッションテキスタイル」が2月11日に東京・青山にあるスパイラルホールにて行われました。

15 |

「日産アートアワード」ファイナリストに 秋山さやかさんが選出

日産自動車株式会社の創立80周年を迎えた2013年より隔年開催されている「日産アートアワード」で、ファイナリスト7名に本学卒業生で美術作家の秋山さやかさんが選出されました。このアワードは現代美術において、グローバルな視点から才能ある日本人作家の選抜、さらにアートシーンでの影響力を高めると共に、社会とアートの親和性を向上させる目的で設立されています。昨年11月に行われた最終審査では、惜しくもグランプリは逃したものの、著名なキュレーターや美術関係者からの推薦を経て、ファイナリストとなった秋山さんの今後の活躍に目が離せません。

(秋山さやかさんは本学広報誌no.178の表紙で特集しています)



19 | 近江源太郎先生 追悼講演会

2015年1月9日にお亡くなりになられた近江源太郎元学長を追悼し、12月11日、日本色彩学会関東支部と女子美術大学との共催で追悼講演会が杉並キャンパスにて開催されました。近江先生の研究領域であった色彩心理学・造形心理学・美術の現状についての研究発表・講演がなされ、追悼講演でありながらも、各研究分野・視点から新たに目指すものを考える意義深い機会となりました。



18 | 『ふうせんかずら』で シンボルマークをデザイン

昨年6月、相模原市の児童相談所と『さがみの里親会』より「里親制度について知って欲しい、関心を持って欲しい」と、里親をイメージするシンボルマーク作成の依頼があり、デザインルーム所属の学生と児童相談所や里親会の方々と打ち合わせを重ねた結果、アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域3年の三谷桐子さんのデザインが選ばれました。ハート模様の種子を持つ『ふうせんかずら』という植物をモチーフに作成されたマークは、種子で『微笑む里親子』を表し、あたたかな家庭で寄り添う里親子を表現。里親会の方からも大変好評で、今後の活動に使用し広めていきたいとの言葉をいただきました。



16 | マーラ・セルベット客員教授 特別講義・講演会

本学客員教授のマーラ・セルベット先生による特別講義・講演会が11月に行われました。イタリア・ミラノにあるセルベット先生のデザイン事務所は、建築・空間構成・プロダクト・インテリアなど幅広い分野で業績をあげ、国際コンペ受賞も多数の著名な事務所です。海外インターンシップとして毎年10名の学生を受け入れていただき、女子美ミラノ賞受賞者の研修先としても本学と連携しています。今回の特別講義・講演会のテーマは「光と影」ということで、照明メーカーである東芝ライテック株式会社の虎ノ門ショールームにて、専門家による光の効果などの講義や、最新の照明器具を見学するプログラムも実施。授業に参加した学生はセルベット先生の情熱的な指導に、大いに刺激を受けました。



平成27年度 卒業制作賞・優秀作品賞 等 受賞者

加藤成之記念賞

大学院	
森 久恵	美術研究科修士課程芸術文化専攻美術史研究領域

芸術学部	
中里 葵	美術学科洋画専攻
小林 麗乃	美術学科日本画専攻
後藤 歎名	美術学科立体アート専攻
杉田 花奈	美術学科芸術表象専攻
田中 もなみ	美術学科美術教育専攻
十字 扶美	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
林 千鶴	デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻
隅本 唯	デザイン・工芸学科環境デザイン専攻
赤星 春香	デザイン・工芸学科工芸専攻
神谷 光紀	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
緑川 櫻子	アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域
大橋 遥	アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域
岡崎 里美	アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域

短期大学部	
竹元 祐	造形学科デザインコース情報デザイン
吉田 有希	専攻科造形専攻美術コース

卒業制作賞

芸術学部	
太田 絵理	美術学科洋画専攻
土屋 紀代美	美術学科洋画専攻
富沢 涼花	美術学科洋画専攻
數奥 晴奈	美術学科洋画専攻
鹿島 葉々	美術学科日本画専攻
大倉 実実	美術学科立体アート専攻
菊 英里加	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
樋口 智子	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
水谷 友紀	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
金澤 春霞	デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻
池田 朱里	デザイン・工芸学科環境デザイン専攻
宮本 果林	デザイン・工芸学科工芸専攻
神谷 光紀	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
北村 香菜子	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
伍 梵	アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域
佐藤 安沙子	アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域
小林 愛	アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域

短期大学部 造形学科	
高木 なつ美	美術コース
吉浜 唯菜	美術コース
飯田 采佳	デザインコース創造デザイン
伊澤 ほのか	デザインコース創造デザイン
大澤 菜月	デザインコース情報デザイン
澤 あゆみ	デザインコース創造デザイン
竹元 祐	デザインコース情報デザイン
森 ひなた	デザインコース創造デザイン

卒業研究賞

芸術学部	
青柳 如美	美術学科芸術表象専攻
山口 真理子	美術学科美術教育専攻
田中 直子	アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域

福沢一郎賞

大学院	
川端 薫	美術研究科修士課程美術専攻洋画研究領域
栗田 ふみか	美術研究科修士課程美術専攻版画研究領域

大久保婦久子賞

大学院	
慶野 智子	美術研究科修士課程美術専攻日本画研究領域
高島 美幸	美術研究科修士課程美術専攻版画研究領域
原 祥子	美術研究科修士課程美術専攻工芸研究領域
中島 由佳	美術研究科修士課程美術専攻立体芸術研究領域
井上 友美子	美術研究科修士課程デザイン専攻視覚造形研究領域
湯浅 千紘	美術研究科修士課程芸術文化専攻芸術表象研究領域

女子美術大学美術館収蔵作品賞

芸術学部	
江原 佳菜恵	アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域

優秀作品賞

芸術学部	
太田 晴子	美術学科洋画専攻
小木 曾領子	美術学科洋画専攻
三奈 木歩実	美術学科洋画専攻
村山 七重	美術学科洋画専攻
脇谷 久仁	美術学科洋画専攻
齋藤 千明	美術学科日本画専攻
菅原 小百合	美術学科日本画専攻
萩原 のぞみ	美術学科日本画専攻
水田 有香	美術学科日本画専攻
三崎 安記	美術学科立体アート専攻
藤波 千乃	美術学科立体アート専攻
飯田 遥	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
高見 澤雪乃	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
前川 真次子	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
三崎 奈津美	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
渡辺 栞	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
松本 華那	デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻
松山 美咲	デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻
柳 美羽	デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻
川村 捺香	デザイン・工芸学科環境デザイン専攻
嶋 友佳子	デザイン・工芸学科工芸専攻
新村 和泉	デザイン・工芸学科工芸専攻
水上 茜	デザイン・工芸学科工芸専攻
小林 奈々	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
田中 友佳子	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
奴間 悠花	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
桑原 明寿美	アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域
小林 紗巳	アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域
中野 裕佳	アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域
大橋 遥	アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域
竹下 京子	アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域

女子美術大学美術館賞

大学院	
岩本 真由	美術研究科修士課程美術専攻洋画研究領域

芸術学部	
中里 葵	美術学科洋画専攻
米島 梨加	美術学科日本画専攻
塚田 未央	美術学科立体アート専攻
瀬谷 由香里	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
神原 萌	デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻
中田 百霞	デザイン・工芸学科工芸専攻
江原 佳菜恵	アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域

短期大学部	
高木 なつ美	造形学科美術コース

本基金は創立100周年記念事業の一環として、2012年に大村名誉理事長夫妻からの寄付を基に設立されました。本基金の目的(※)のために功績のあった者、および団体に各賞が贈られ、本年度は以下の方々に授与されました。

※本基金は卒業生・在学生の制作・研究など芸術活動の奨励、アーティストおよび研究者の育成を主な目的としています。

平成27年度 女子美栄誉賞

【副賞 記念品】

吉江 麗子
1947年女子美術専門学校 本科 西洋画部 卒業
本学卒業後、教育者として40余年の長きにわたる後進の指導と育成に努められ、また、作家としては春陽会、女流画家協会において60年を超えて活躍し続けておられる功績を称えての授賞です。

平成27年度 第15回 女子美 制作・研究奨励賞

柴田 有子
1997年 芸術学部 絵画科 洋画専攻 卒業



『スカートの夢 15-06』
53.0×53.0cm(S10)/ acrylic on canvas / 2015

沼尾 めぐみ
2010年 大学院 美術研究科 デザイン専攻
修士課程 ヒーリング造形研究領域 修了



『光』
8m×2.5m内にパーツ123枚/鳥山和紙、草木染、棉の殻

長沢 郁美
2006年 大学院 美術研究科 美術専攻
修士課程 洋画研究領域 修了



『抱きしめてあげる』
130×130cm / Acrylic on canvas

平成27年度 第14回 女子美美術奨励賞 (留學生対象)

劉 熠
美術研究科 美術専攻 修士課程
洋画研究領域 1年次在籍



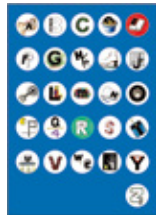
『Another space series-1』

韓 曠
美術研究科 デザイン専攻 修士課程
視覚造形研究領域 2年次在籍



『料理から〇〇へ』

朴 惠辰
芸術学部 デザイン・工芸学科
ヴィジュアルデザイン専攻 4年次在籍



『アルファベット』

100周年記念大村文子基金

平成28年度 第10回

女子美ミラノ賞

【大学借上げマンション 1年間貸与】
【副賞 100万円】



『Loop in the air』
91×116.7cm/oil and oil pastel

春草 絵未
2002年 女子美術大学 芸術学部
絵画科 日本画専攻 卒業

平成27年度

大村特別賞

【副賞 記念品】

『刺繍をまなぶ』展プロジェクト
女子美術大学同窓会

『第51回全日本書初め大展覧会』・
『第23回国際高校生選抜書道展書の甲子園』受賞者
女子美術大学付属高等学校 伊藤遼玲(3年在学時)、
佐塚恵奈(3年在学時)、齋藤瑛子教諭

『第15回全国高等学校ファッション選手権大会
ファッション甲子園』優勝者
女子美術大学付属高等学校3年 池田安季、木下まこ

JAM

- 造形「さがみ風っ子展」**
 10/22(木) ⇨ 11/3(火・祝) ※火曜休館、但し11月3日(火)は祝日のため開館
 毎年恒例の相模原市教育委員会主催による小中学生の作品を展示しました。
- 平成27年度 女子美術大学 退職教員記念展**
 1/6(水) ⇨ 2/1(月)
 平成27年度に本学を定年退職する実技系教員 矢辺博子先生(芸術学部デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻講師)の作品を展示。初期の作品から近作まで約30点が並び、先生の作家活動の歩みを一堂にご覧いただくことができました。
- 平成27年度 女子美術大学大学院博士後期課程 研究作品展**
 2/11(木) ⇨ 2/16(火) ※会期中無休
 平成27年度に大学院博士後期課程を修了した研究作品を展示しました。
- 平成27年度 女子美術大学大学院修士課程 制作作品展**
 3/7(月) ⇨ 3/15(火) ※会期中無休
 平成27年度に大学院美術研究科を修了する学生の作品を展示しました。JAM:洋画、日本画、版画、工芸(織、刺繍)、立体芸術、視覚造形、環境造形、芸術表象を専攻した学生の作品を展示しました。

女子美ガレリアニケ

- 女子美スピリッツ2015 - 郷倉和子展 -**
 10/16(金) ⇨ 11/4(水) ※10月25日(日)特別開廊
 本学卒業生で名誉博士、郷倉和子先生の梅花を描いた作品をはじめ、女子美時代のスケッチなど22点を展示しました。
- 女子美術大学・長岡造形大学・東京工芸大学・多摩美術大学・中国伝媒大学・東方設計学院(台湾)六大学合同写真展・〇(まる)展**
 11/13(金) ⇨ 11/25(水) ※11月22日(日)特別開廊
 本学をはじめ、長岡造形大学、東京工芸大学、多摩美術大学、中国伝媒大学、東方設計学院、6つの大学でそれぞれに写真を学ぶ学生の写真作品を展示しました。
- 第9回 ポスターにできること。女子美術大学×電通 人権ポスター学生作品展**
 12/4(金) ⇨ 12/16(水)
 株式会社電通と美術大学のコラボレーション企画「人権アートプロジェクト2015」に参加した本学学生のポスターを展示しました。
- 女子美ガレリアニケ CURATORS'SELECTION #01-Art Complex-**
 1/15(金) ⇨ 2/3(水)
 ギャラリー学芸員が目するアーティスト、金藤みなみさんと関口光太郎さんをご紹介します。
- 女子美術大学大学院修士課程 デザイン専攻アートプロデュース修了制作 AP Theatre 2016 -AP劇場2016-**
 2/12(金) ⇨ 2/25(木)
 大学院アートプロデュース修了1期生となる野村愛美さんと茂木友里絵さんの作品を紹介しました。
- 平成27年度 女子美術大学大学院修了制作作品展**
 3/7(月) ⇨ 3/15(火)
 平成27年度大学院美術研究科修士課程を修了するメディア、ヒーリング、ファッションテキスタイル、アートプロデュースの学生作品展示を行いました。

歴史資料展示室

- 平成27年度収蔵資料展 収蔵資料にみる女子美の歩み**
 -女子美術大学付属高等学校・中学校創立100周年記念-
 4/3(金) ⇨ 3/13(日)
 収蔵資料展示を通じて本学の115年の歴史を紹介するとともに、一部コーナーにて創立100年を迎えた本学付属高等学校・中学校の関係資料を展示しました。

展覧会予告

JAM

- 女子美の新星**
 4/7(木) ⇨ 5/22(日)
 本学を卒業した20代の若手アーティストによる展覧会。様々なジャンルの作品を展示し、本学の多様な教育活動を示すとともに、卒業後の創作活動の軌跡を顕彰します。
- 女子美染織コレクション展 Part6 × 渡辺家コレクション TEXTIL DESIGN -時代をうつす布-**
 6/11(土) ⇨ 7/24(日)
 女子美染織コレクション展Part6は江戸の老舗に代々受け継がれた渡辺家コレクションとのコラボレーションです。江戸時代末期から明治、大正、昭和と激動の時代をくりぬけてきたテキスタイルデザインを堪能します。
- 女子美術大学美術館 新収蔵作品展**
 4/8(金) ⇨ 6/15(水) ※4月17日(日)特別開廊
 本学美術館で新たに収蔵した作品からセレクトして、ご紹介します。
- 女子美術大学短期大学部1年前期基礎造形展**
 7/8(金) ⇨ 8/3(水) ※7月17日(日)、7月18日(月・祝)特別開廊
 本学短期大学部1年生が自由選択授業で制作した講座の学生作品を展示します。

歴史資料展示室

- 平成28年度企画展 「常設展+特集 大村智女子美術大学 名誉理事長の幼少から現代に到る足跡」**
 5/13(金) ⇨ 3/12(日)
 休室日:火・日・祝日、8月6日～9月10日、12月27日～1月5日
 ※特別開室 7月15日～18日、9月11日、10月30日、3月12日
 収蔵資料展示を通じて女子美術大学110余年の歴史を紹介するとともに、一部コーナーにて大村智名誉理事長の幼少から現代に到る足跡を特別展示します。



JAM 展覧会報告 PICK UP

2015/11/14(土) ⇨ 12/20(日)

女子美染織コレクション展 Part 5では日本で独自に展開した型染めの世界をご覧いただきました。型染めは和紙に柿渋を塗った型紙を使用してさまざまな模様を染める、染色の一技法です。鮮やかな色彩とともにその極小の模様は人間の作り出す技の極致ともいえます。本展覧会では、伝統的な型紙と小紋の着物、琉球紅型、2013年寄贈の小島恵次郎氏の着物、女子美の工芸を導いた柚木沙弥郎先生、大澤美樹子先生の作品、また、型染めから発展した注染の浴衣「かぶくゆかた」(松崎笙子先生)などを展示し、多様に展開した型染めを紹介しました。特別講演では客員教授の仲條正義先生と奥村較正先生に型紙の魅力とご自身のデザインに対するお考えをお聞きしました。また、ロビーでは高橋英子名誉教授が蒐集した型紙の数々を展示いたしました。

女子美染織コレクション展 Part 5
「KATAZOME」



女子美術大学広報誌

発行 学校法人女子美術大学
〒166-8538
東京都杉並区和田1-49-8
企画・編集 総務企画部広報グループ
監修担当 浅野正博・壺谷吉也
デザイン協力 株式会社 Kitchen Sink.
印刷 株式会社 ヒーローズ
発行日 2016年4月1日
©2016 学校法人女子美術大学

広報グループでは女子美のニュースを募集しています。お気軽に下記までお知らせください。また、本誌の定期購読をご希望の方はお送り先を広報グループまでご連絡ください。

TEL 042-778-6123
E-mail prs@venus.joshi.ac.jp
URL <http://www.joshi.ac.jp>
<https://ja-jp.facebook.com/JOSHIOfficial/>